

新年のご挨拶



対馬市長
松村良幸

新年あけましておめでとう
ございます。市民の皆さまに
おかれましては、ご家族おそ
ろいで新春を健やかに迎え
のこととお慶び申し上げます。
また、市民皆さまには平素よ
り市政に対し深いご理解と温
かいご支援、ご協力を賜り心
より厚くお礼申し上げます。
皆さまから負託を受けまし
た市長としての任期も残り3
ヶ月ほどとなりました。対馬
市の舵取り役として、「第一次
産業と観光の融合するまちづ
くり」を標榜し、政策を進め
てまいりましたが、就任当初
から国の三位一体の改革の荒

波の中、交付税の縮減などに
より極めて厳しい財政運営と
なり、財政再建と行政システ
ムの改革の取り組みを余儀な
くされたことは皆さまご承知
のとおりで、市民皆さまには
痛みを分かち合うという市民
協働のもと、ご辛抱を強いる
4年間でなかつたかと、行財
政改革のためとはいえ大変心
苦しく思っております。
昨年の財政状況を振り返り
ますと、各種事業等の抑制と
職員給与や管理職手当のカッ
トによる人件費削減などによ
り、19年度の当初予算は28
8億円と平成16年度の383

億円に比べ約25%縮減するこ
とができ、新市誕生後はじめ
て300億円を割る身の丈に
合った予算で、本市の目標と
する財政規模250億円に一
歩近づけたのではなかつたか
と思えます。任期僅かとなり
ましたが、今後も安定した財
政運営を目指し、対馬市中期
財政計画に基づき、各種事業
等の選択と集中による効果的
で効率的な事業推進と公共施
設の管理運営の見直しや遊休
公共財産の売却、貸付を推進
し、職員定数の縮減を図って
人件費の抑制を推進するなど、
積極的に行財政改革に努めな
ければならないと考えており
ます。

また、対馬市の借金であり
ます市債残高につきましては、
19年度末見込みは約597億
円となり、16年度末の641
億円から約44億円の縮減を果
たす事ができました。しかし、
それでもまだ、本市にとって
は大きな財政負担であり、今
後も可能な限り繰上償還等を
実施して市債の縮減に努め、
新たな借り入れの抑制を行っ
て計画的な削減を図って行か
なければなりません。一歩間
違えれば財政再建団体への道
がゲートを開けて待つており
ます。それだけではどのよう
にしても避けなければなりませ
ん。

このような厳しい財政状況
の中ではありますが、19年度
には市民参画と協働のまちづ
くりを推進するため、新規補
助事業として「わがまち元気
創出支援事業」を予算化し、
29の地区、団体が補助金を活
用して、グリーンツーリズム
・体験メニュー充実事業やま
ちづくり協働プランアクション
事業など地区の資源活用事
業をはじめ、地区の夏祭り、
ふれあい健康まつりなどの地
域のコミュニケーション強化事業、
さらに地区内の植栽事業や河
川清掃活動などが行われまし
た。十分に予算化できなかつ
たため全てのご要望にお応え
することができず、市民の皆
さまには物足りなさやご迷惑
をお掛けしたのではないかと
思っておりますが、市民協働
の地域づくりが着実に始まり、
その促進がなされたのでない
かと考えております。また、
就業の場を確保し増加する人
口流出に歯止めをかけ、対馬
経済の浮揚のため積極的に企
業誘致を推進し、離島という
ハンデもあり誘致が困難な状
況でしたが、120名収容の
ホテルを誘致企業として正式
に協定を結んだところで、
企業誘致については現在も鋭
意交渉中で本年中には幾つか
ご報告ができるものと考えて
おります。



対馬市議会議長
波田政和

平成20年の年頭にあたり、市議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。市民の皆様、明けましておめでとございます。皆様にはご健勝にて、輝かしい新春をご家族お揃いで迎えられたこととお慶び申し上げます。

平成16年3月に対馬市が誕生して、今年2月でまる4年を迎えますが、自治体としては、いわゆる節目の年であり、対馬市が発足した当初は、島全体が夢と希望そして期待に満ち溢れておりました。が、いざ、蓋を開けてみますと、国の三位一体の改革、旧町時代の借財等により、厳しい財政状況が浮き彫りになりました。経済面においても、

公共工事の減少などによって島の経済は冷え切った状態が続き、若年層の島外流出に拍車がかかり、急速に過疎化が進行しています。また、昨年は原油価格高騰のあおりを受け、ガソリン・灯油類等の燃料価格が急激に上昇、併せて石油関連商品も値上げされるなど、本土地域よりも輸送コストが掛かる離島にとつては、大きな打撃となりました。しかし、このよ

うな時世こそ、市民・行政・議会が一体となり、「国境・自然・歴史と文化」いわゆる対馬固有の財産を生かして、再生と発展を目指す必要があるのではないかと、思い巡らしてあります。昨年

は、朝鮮通信使400年、対馬聖人陶山訥庵先生誕生350年の記念行事が開催され、由緒ある対馬の歴史に一層厚みが増しました。韓国からの観光客は毎年うなぎ登りに増え、昨年は遂に6万人を突破、民族習慣の相違等もあり、互いに歩み寄り解決しなければならぬ問題も

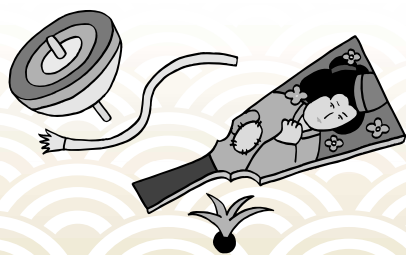
ありますが、国際交流の拡大を基盤とした産業・経済の発展が期待されます。また、対馬の子どもたちの文化・スポーツの分野での目覚ましい活躍ぶりが連日のように新聞、市報等で紹介され、嬉しく思うと共に頼もしく感じる年でもありました。まさに「つしまっ子」こそが島一番の財産であり、前途に光明が射す思い

でございます。市議会の1年間を顧みますと、第1回定例会では、市の財政再建の一助になれば幸いとの思いで、議員報酬を一律5%削減。また、年間を通して総務文教・厚生・産業建設の3常任委員会が所管の事務調査を実施しておりますが、財政状況が逼迫し、経済活動

が停滞している今日、早急に島の景気回復を図る必要があることから、平成18年から調査を継続しているイノシシ等被害対策特別委員会を含め、議員定数調査特別委員会、国境離島活性化対策特別委員会、自衛隊誘致増強調査特別委員会の4特別委員会を設置し、重要課題の早期解決に積極的に取り組んで参りました。議員定数調査特別委員会では市民皆様のご協力を得て、現行定数26人を22人とすることが適当と結論付け、第4回定例会において条例案を可決し、次回一般選挙より22人とすることを決定、自治体の規模、現状に即した定数条例を制定することができました。

また、その他の委員会においても、国境離島の特色を生かした政策提案ができないかなど、微力ではございますが、粉骨碎身の想いで調査研究を続けております。

私たち議員は市民皆様の代表として、市の意思を決定する重大な職責を仰せつかつていることを認識し、その職務を遂行するため日々議会活動に邁進しておりますが、何分にも力不足を実感させられる



親子で仲良くマラソン

ファミリーマラソン大会に200名が参加
峰町佐賀



12月2日、東小学校（峰町佐賀）をスタート・ゴール地点に第22回ファミリーマラソン大会が開催され小・中学生、一般、家族など総勢200名が参加しました。

小学生の部ではスタートからいきなりダッシュしたり、ラストスパートを仕掛けるなど、子どもらしい光景が見られ、大人の参加者の笑いを誘っていました。

年末恒例の物産市とフリーマーケット

多くの人出で賑わう（上対馬町比田勝）

12月16日、上対馬町比田勝港埋立地で第16回対馬物産市（対馬観光物産協会主催）が開かれました。

上対馬高校プラスバンド部によるオープニングセレモニーで幕を開けると、会場には大勢の買い物客が集まり鮮魚やあわび、サザエ、牡蠣、椎茸など地元「海の幸」「山の幸」をたくさん買い求めていました。

また、豪華賞品が準備されたお楽しみ抽選会も行われ、会場は終日賑わいました。

一方、比田勝中通り商店街で同日開催された第7回フリーマーケットIN上対馬（商工会上対馬支部主催）では、一日限りの歩行者天国の中、多くの買い物客が掘り出し物を真剣に捜し、ヤマネコの着ぐるみも登場して子ども達にも楽しい一日となりました。



歩行者天国の中、賑わうフリーマーケット

吉田翼さん（比田勝小6年） 第七管区海上保安本部長賞受賞

未来に残そう青い海・図画コンクール
小学校高学年の部



表彰状を手にする吉田翼さん

海上保安庁が実施した「第8回未来に残そう青い海・図画コンクール」で、上対馬町の比田勝小学校6年生吉田翼さんが、第七管区海上保安本部長賞を受賞しました。「対馬のきれいな海がいつまでもきれいなままで」という気持ちで描いたそうです。

コンクールには、対馬から492点（小学校低学年の部195点、小学校高学年の部187点、中学校の部110点）の応募がありました。どの作品も普段身近に接している対馬の海に対する愛情が感じられる作品でした。優秀作品等は対馬海上保安部ホームページにも掲載されています。

(<http://www.kaiho.mlit.go.jp>)

/07kanku/tsushima/

その他主な結果（敬称略）

第七管区海上保安本部長優秀賞

中学校の部 吉野亜沙美（厳原中）

対馬海上保安部長賞

小学校低学年の部 早田侑異（塩浦小）

〃 高学年の部 武末剛慶（厳原小）

中学校の部 原 笙子（厳原中）

比田勝海上保安署長賞

小学校低学年の部 前野 匠（佐須奈小）

〃 高学年の部 早田菜々子（久原小）

中学校の部 三原咲積（比田勝中）

海上保安協会厳原支部長賞

小学校低学年の部 西尾美咲（豊玉小）

〃 高学年の部 西田晃得（美津島北小）

中学校の部 小島明奈（大船越中）

海上保安協会比田勝支部長賞

小学校低学年の部 山田ほのか（佐須奈小）

〃 高学年の部 鈴木望央（豊小）

中学校の部 児玉友美（豊中）



受賞した吉田さんの作品

対馬の美味しいスイーツが勢揃い

厳原町で対馬菓子博 2007

12月1日、2日の両日、対馬市交流センターで「対馬菓子博2007」が開かれ、市内で営業している菓子店から10店舗が参加し、お店自慢のお菓子が販売されました。地域活性化に取り組んでいるNPO法人対馬郷宿が、対馬のお菓子（スイーツ）を広く知ってもらおうと主催したものです。

会場では、対馬の伝統的なお菓子「かすまき」をはじめ、たい焼き、回転焼き、まんじゅうなどの和菓子と共に、ケーキ、ワッフル、クッキーといった洋菓子が販売されました。

立ち寄った買い物客は、いつも行き慣れた菓子店の他に、普段接することのない地元以外の菓子店の商品に興味をひかれた様子で、手にとって見たり実際に買い求めていました。

また、会場では回転焼きとクレープの実演販売が行われ、甘く香ばしい香りが立ちこめる中、手際よくお菓子をつくる職人技を、多くの子どもたちが買ってもらったお菓子をほおぼりながら興味深そうに見つめていました。



豆餡の大豆回転焼きさんは、地区ゆかりの伝統衣装「はぎとうじん」を着て実演販売



厳原小学校でロボット教室

最先端の科学技術に触れた子どもたち

子どもたちに最先端の科学技術に触れてもらい科学への興味・関心を持ってもらおうと、厳原小学校の4年生児童75名を対象としたロボット教室が11月21日に開かれました。文部科学省の「次代を担う人材への理数教育の拡充」施策の一環として実施されたものです。

長崎大学から招かれた教授らによる指導のもと、通信の授業では、携帯電話のカメラ機能を使って地区内の神社など様々なポイントで撮影した写真を、メール機能を使って学校内のコンピュータに送信しました。自分たちの撮影した写真が学校のコンピュータの地図に表示されると、子どもたちは驚きとても喜んでいました。

またロボットの授業では、ロボットに内蔵された小さなコンピュータのプログラムを書き換え、自分の命令通りに光り音を出すように改造を加え、飛行機などをかたどった紙を貼り付け色を塗るなどして自分なりの個性のあるロボットを作りました。

4年2組の満山奈央さんは「携帯で写した写真が、すぐに地図に貼り付けられたのを見てすごく便利だと思いました。コンピュータに興味がわきました」と話していました。



携帯電話での写真撮影



自作のロボットを手にする子どもたち

12月15日にめでたく99歳を迎えられた厳原町豆餡出身の本石千代さんに、市長から敬老祝い金を添えて褒状が贈られました。贈呈式は千代さんが利用している総合福祉センター「お船江の里」厳原町久田)で行われ、市長から「これからもお元気で長生きしてください」との言葉に、「ありがとうございます」と笑顔で元気に応えてました。家族の方によると、元気の秘訣は「よく食べて、よく寝ること」だそうです。



祝白寿 99歳
おめでとございます。
本石千代さん
厳原町豆餡出身
明治41年12月15日生